



生野まちづくり工房「井筒屋」では来館者にクッキーやお茶が振る舞われる

かなや
いくの銀谷工房
代表 斉藤敬子さん
朝来市生野町



ほんのりした甘みと広がる紅茶の風味。素朴でどこか懐かしい朝来市生野町の「紅茶クッキー」が人気を集めています。きっかけは、紅茶の会が生野紅茶をつくり始めたこと。地元の主婦から、廃棄される粉茶を使って何かできないかという意見がありました。何人かの主婦が集まり、粉茶を生地に混ぜたクッキーをイベントで販売したところ、あっという間に完売したそうです。

「思いがけない人気に驚いたと当時を振り返るのはいくの銀谷工房」代表の斉藤敬子さん。斉藤さんたちはこの紅茶クッキーを始め、地域の特産品を生かした商品をつくることに

紅茶の会...生野紅茶の特産品として広めようと平成13年に発足

地元主婦のまちづくり コミュニティビジネス



生野の特産品を生かした手作り小物 無添加の紅茶クッキー

動しているという一方で、こうした一面が活動の成功を支え、長く続けていく秘訣となっています。

「自分たちがつくったものが売れた時は何ともいえない喜び。元気の源です」とメンバーの桑田富美子さん。メンバーには就職の経験がないという主婦も多く、手づくりした商品を売ることも、お客さんと直接対話するということは大きなやりがいとなっているそうです。

2002年にいくの銀谷工房を立ち上げました。メンバーはものづくりが好きな主婦13人。現在、生野まちづくり工房「井筒屋」を拠点に、紅茶クッキーや手づくり小物を常時販売しています。

「この活動はボランティアではなくコミュニティビジネス。自分たちがつくった物はあくまで、商品」という意識で開発や改良に取り組みます」と語る斉藤さん。いくの銀谷工房でつくった商品はグループ内でもお金を出して買うことにしています。またお客さんの生の声を聞くため、販売はメンバーが直接行います。それぞれが楽しみながら自分のペースで活

動しているという一方で、こうした一面が活動の成功を支え、長く続けていく秘訣となっています。

「いくの銀谷工房」が誕生して3年。試行錯誤を繰り返して完成した自慢の紅茶クッキーは口コミで人気を広がり、お土産に買っていく人も増えていきます。手作り小物の評判も上々。銀や竹炭を使うなど、ここにも生野ならではの「味」がでています。小物を商品に加えたのは、クッキーのパッケージに手づくりの小物を添えたのが始まり。女性らしい細やかな心づかいがつけ、小物を買いたいという人が現れたそうです。

「自分たちがつくったものが売れた時は何ともいえない喜び。元気の源です」とメンバーの桑田富美子さん。メンバーには就職の経験がないという主婦も多く、手づくりした商品を売ることも、お客さんと直接対話するということは大きなやりがいとなっているそうです。

写真やイラストなどのフルカラー印刷も得意に実現。あらゆる業界・業種に対応する総合グラフィック印刷サービス。

街を彩る。

伝えたいイメージを的確に伝える多彩な演出。今、街がメディアに変わる。

法人・個人・団体・学校・自治体

Quick Quality Cost

岩見印刷株式会社

【本社・メディアテクノロジー】
兵庫県豊岡市白旗町土庫07-1 TEL.0796-42-1800 070
【ホームページ】http://www.iwami-hinokai.co.jp
【E-mail】info@iwami-hinokai.co.jp

【姫路支店】TEL.0773-25-4402 070
【鳥取支店】TEL.0776-251-0800
【岡山支店】TEL.076-865-2677
【東京支店】TEL.03-0257-7683

のんびりあるいてみませう

フィールド散策のすすめ

「新緑がきれいなこの時季、思いっきり自然を満喫したい」。それは思っても、本格的な登山やハイキングになると、体力的な問題や装備を揃えるのは大変だ。

そんな人に気軽にできる「山歩き」として、花や草木を楽しむフィールド散策をおすすめしたい。花を眺めながら、ゆっくりと散策すれば、いつものまにか長時間のウォーキング運動を

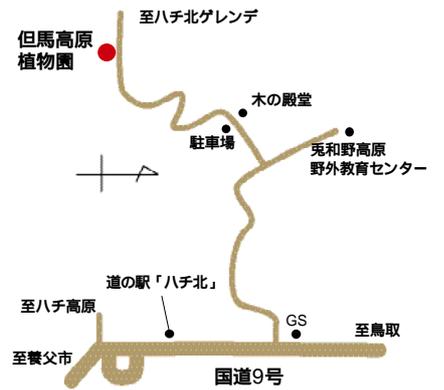
していることにもなり、健康やダイエット効果も抜群である。

幸いにも但馬は花がいっぱいの公園や広大な花畑が楽しめるスポット、広い植物園が数多く点在している自然の宝庫。実に多種多様な植物を観ることができ。

そのひとつ、香美町村岡区にある「但馬高原植物園」は、豊かな植生と湧水に恵まれた瀬川平の景観をいかした植物園。兵庫県の観光百選の第1位にも選ばれている名所である。

この植物園の特徴は、南方植物の北限、北方植物の南限、高山植物の低限、低地植物の高限で、しかも湿度が多いということ。それ故、園内には樹木、草花の自生植物約1千種類と、それに類する300種類ほどの植物を見ることができ。

散策を始めてまず驚くのが、その酸素密度の濃さ。何気ない普段の呼吸が、深呼吸をしているかのようだ。「フィールド散策を楽しむ」ツじづくり観察する。しゃがみこん



だり、近くに寄りたりして、いろんな角度で草花を観てほしい。特に植物にとって水分補給をする上で大事な葉っぱひとつでも、それぞれに違いがあります。特にこの時期なら、ギボウシやオタカゴウの葉が面白い。奥の深さ、見つける喜びが魅力ですね」とは、支配人の田丸さん。

「ペンチに腰掛けてみてください。今まで感じられなかった、小川のせせらぎが聞こえてきますね。立ち止まってみて、感じとれるものもたくさんあります」と教えてくれた。

今からの季節なら、ヤマアジサイやササユリがきれいな花を咲かせるという。但馬が誇る自然を、ぜひ自分の足で歩いてほしい。

協力：但馬高原植物園
大人500円、高校生400円、小中学生100円。9～16時。



(左上)但馬高原植物園のシンボル「和池の大カツラ」
(左下)この時期はササユリをはじめ、ヤマアジサイなどが見頃を迎える

こだわりのきもの屋

周囲に涼やかさを感じさせる装いでお出かけしてはいかがでしょうか。

●縮緬の単衣 ●紬の単衣 ●木綿の単衣 ●御召の単衣・・・など
当店はTPOに合わせた着物、帯、小物合わせから着付けまで、トータルでお手伝い致します。商品的にはオリジナル性、また付加価値の高い商品を常時展示しています。

KIMONO SALON KEITANI
すみのサロン けいたに
フリーダイヤル 0120-529-008
〒668-0084 兵庫県豊岡市福田1887-1
電話 0796 (24) 9239 番
FAX 0796 (24) 0185 番
E-mail : kimonosalon@nkansai.net

